

■ 脱炭素社会の構築 取り組み状況・実績



新車CO2ゼロチャレンジ

2025目標

主な取り組み実績

新車平均CO2排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> トヨタの環境戦略に準拠した車両の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 構造合理化や軽量高強度材への置き換えによる軽量化を実施 新車平均CO2排出量に対して、環境性能の向上および電動車ラインナップの拡充を推進
電動車の普及	<ul style="list-style-type: none"> 超小型BEVの普及に向けたコムスの商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> BEV※1：超小型電気自動車コムスはCO2を出さない再生エネルギー電力100%で生産 2012年からの累計生産台数 1万台を達成 HEV※2：アルファード、ヴェルファイア、ノア、ヴォクシーを生産し、 2023年度HEV生産台数は17万4千台、累計生産台数250万9千台を達成 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>超小型電気自動車 コムス</p> <p>※1 BEV：Battery Electric Vehicle（バッテリー式電気自動車）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ノア</p> <p>※2 HEV：Hybrid Electric Vehicle（ハイブリッド自動車）</p> </div> </div>



工場CO2ゼロチャレンジ

2025目標

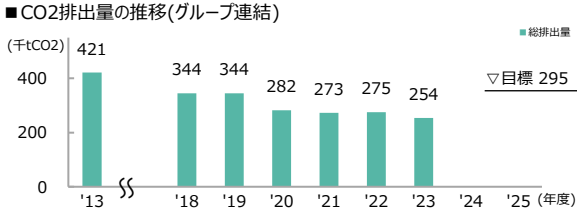
主な取り組み実績

生産活動におけるCO2排出量の削減

- 2013年度比▲30%※3
- ※3 自社+国内外連結子会社(生産系)

実績推移

■ CO2排出量の推移(グループ連結)




● 現場監督者が無理なく続けられる日常管理の仕組みを定着させるため、エネルギーの使い過ぎを自動判定・通知するシステムを構築し削減活動を活性化。

工務

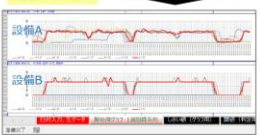
見える化ツールを考案

【図1】見える化ツール

社内ルール（設定値）
①立上げ②稼働③直間



設備単位



現場

エネルギー日常管理を実践

①機械立上げの着眼「立上げのムダ」
基準と実態を比較し、早すぎる立上げは是正、次に季節に合わせた最適立上げに変更

②稼働中の着眼「集中管理のムダ」
人がいない工程は点灯せずに通路のみ点灯

③直間の着眼「昼間勤務と夜間勤務の意識の差」
反対勤務はわずかな時間でも、省エネ設備停止を実施

・監督者自ら工程ごとのエネルギー消費を最少化
・デジタル化によりルーティン作業はすべて自動化

Topic：2024年度省エネ大賞で経済産業大臣賞(小集団活動分野)を受賞 [詳しくはこちら](#)

● コロナ禍で生産不安定ななか、非稼働時間帯における設備の徹底停止など、日常改善による省エネを実施

再生可能エネルギーの導入

● 太陽光発電による再生可能エネルギーの導入

● 太陽光発電の各工場等への設置累計をグループ連結で発電出力約17MW（24年度単年約6MW）に拡大

● 2025年1月、国内全車両生産拠点（本社・富士松工場、いなべ工場、吉原工場、刈谷工場、福利厚生施設、岐阜車体）におけるすべての使用電力について、再生可能エネルギーへの切り替えを完了、100%化を開始



いなべ工場建屋への太陽光パネル設置状況